

研究機関名：東北大学

受付番号：	2012-1-304
研究課題名	原発性アルドステロン症における副腎静脈サンプリングのための multidetector CT による副腎静脈描出能の評価
研究期間	西暦 2012 年 10 月（倫理委員会承認後）～2013 年 3 月
対象材料	<input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ CT 画像）
上記材料の採取期間	西暦 2010 年 10 月～2012 年 9 月
意義、目的	<p>正確な副腎静脈サンプリングにより片側副腎からのアルドステロン過剰分泌を確定診断し、鏡視下手術にて片側副腎摘出術を行うことで高血圧症の軽快ないし完治を見込める症例が多く見られることがわかってきた。</p> <p>しかし、副腎静脈サンプリングの成功率は右側では低く、既報告では 70-80%である。当院では副腎静脈を multidetector CT (MDCT)にてサンプリング術前に描出することで、サンプリング成功率向上に役立っている。本研究では、MDCT での描出能および副腎静脈解剖の正常変異、最適な造影タイミング、副腎腺腫の有無と静脈描出能の関係を正確に評価し、静脈サンプリング法の今後の標準化と普及に役立てたい。</p>
方法	<p>対象：原発性アルドステロン症と診断され、サンプリング前に造影 MDCT を撮影された症例 100 例を retrospective に解析する。</p> <p>CT 撮影法：イオパミロン 370mgI/ml 100ml を急速静注し、早期動脈相、後期動脈相、門脈相、および遅延相を撮影する。造影剤注入量は体重により微調整を行う。上記 4 相のダイナミック撮影を 1mm 厚にて再構成し、ワークステーション上で副腎静脈、および副腎腺腫を評価する。</p>
問い合わせ・苦情等の窓口	東北大学病院 放射線診断科 助教 大田 英揮 022-717-7312 (放射線診断科 医局)